

2023 年度
自己点検・評価報告書

令和6年3月19日

学校法人タイケン学園
日本ウェルネススポーツ専門学校広島校

目 次

I	教育理念・目標	1 ページ
II	学校運営	2 ページ
III	教育活動	4 ページ
IV	学修成果	8 ページ
V	学生支援	9 ページ
VI	教育環境	11 ページ
VII	学生の受入れ募集	12 ページ
VIII	財務	13 ページ
IX	法令等の遵守	14 ページ
X	社会貢献・地域貢献	15 ページ
XI	国際交流	16 ページ

日本ウェルネススポーツ専門学校広島校

校長	浜野	由美
事務	清野	光世
教務主任	浜野	由美
専任教員	武居	由美
専任教員	清野	光世

I. 教育理念・目標

I-1. 自己評価

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
2) 学校における職業教育の特色は何か	4 3 2 1
3) 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
4) 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に 周知されているか	4 3 2 1
5) 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 3 2 1

I-2. 項目ごとの評価理由と改善策

1) 理念・目的・育成人材像は定められているか

以下のとおり定めていることから評価4とした。

教育理念

他者との学び合いを通し、物事を様々な角度から考えられる人を育てる。異文化を尊重できる心を育てる。

目的・育成人物像

3つの方針に定める以下のような人物の育成を目的としている。

- ・自らの身につけた知識と専門性をもって、地域社会・国際社会に貢献することができる。
- ・多様な文化や価値観を持った人々と知的なコミュニケーションをとることができる。
- ・多様な文化や価値観を寛容に受け止め物事を様々な角度から考えることができる。
- ・自ら目標を設定し、課題解決に向けて取りくむことができる。

2) 学校における職業教育の特色は何か

以下の特色をもって評価3とした。

Microsoft office ソフトの操作、Web ページ作成、文書デザイン、著作権や肖像権等の扱い、情報リテラシー等 ICT 分野に関する内容とともに、セルフマネジメント、健康科学等働く上で心身ともに健やかに保つための方法を学び、社会に貢献し続けることができる人財を目指す。

3) 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか

留学生が100%である現在の状況は改善すべき課題であり、日本人学生にとって魅力のある学校づくりと日本人学生に広くアピールしていく必要性を感じている。留学生教育においては、労働力不足で外国人材が求められる現在の日本の状況を踏まえ、日本社会で円滑なコミュニケーションをとりながら即戦力として働ける人財の育成を目指しており、これまで年々日本企業への就職者が増加しつつある。2023年度は技術・人文知識・国際業務への在留資格更新が認められ内定を得る学生がいた。広島出入国在留管理局管内では、これまで概ね認められてきた四年制大学卒業の留学生にも同資格への変更が認められないケースが散見され、国の方針にも今後注視する必要がある。このような現状を受け、これまで描いていた構想が揺らいだ面もあり、自己評価の3とした。日本社会のニーズが特定技能での働き手を求めている現状を踏まえた上で、専門性を活かした技術・人文知識・国際業務での就職を希望する学生に資格変更が認められるよう、教育の質を高めていきたいと考えている。

4) 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が生徒・保護者等に周知されているか

現在の在校生が留学生ということから、理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等に関する周知については保護者向け周知が徹底できているとは言えない。前年度の反省を踏まえ、こうした内容について在校生にきちんと伝えることに努め、保護者に各自伝えてもらうよう取り組んでいるが、保護者に伝わる各国語での案内等の作成には至っておらず、評価は3とした。

5) 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

現在就職活動を支援する中で企業側のニーズに関する情報収集を学校として大切にしており、それに見合った学生を輩出できるよう教育目標、育成人材像にも反映し取り組んでいることから評価を3とした。

II. 学校運営

II-1. 自己評価

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1

2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 3 2 1
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 3 2 1
4) 人事、給与に関する制度は整備されているか	4 3 2 1
5) 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4 3 2 1
6) 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1
7) 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1
8) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1

II-2. 項目ごとの評価理由と改善策

1) 目的等に沿った運営方針が策定されているか

本校の学校運営の基本方針は、地域社会に根差し、国際人財を育成することである。これをもって評価4とした。

2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか

1) で述べた基本方針にもとづき、年次事業計画を策定し実行するとともに、西日本豪雨災害のような突発的な出来事に対しても同様に基本方針に沿って即座に求められる行動をとることを心がけている。また新型コロナウイルスをめぐって、急な変更、遠隔授業への切り替え等の計画を予測しつつ、考え定めている。よって評価4とした。

3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか

学校法人タイケン学園のグループ校として、理事長を中心に体系的な意思決定の仕組みが定められ、グループ校教職員に周知され機能している。また、広島校としても校長を中心として教職員と連携をとり、速やかな意思決定から実行へと移すことができたことから、評価3とした。

4) 人事、給与に関する制度は整備されているか

学校法人タイケン学園としての定めがあり、グループ校教職員に周知されているが、財務運営上においては厳しいものがある。よって評価2とした。

5) 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか

教務・財務等の組織整備については、広島校の状況に応じて学校法人タイケン学園

本部と相談の上必要な対応をとっている。手順等については定めがあり、それに沿い手続きを行っていることから評価4とした。

6) 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか

本校は学校教育法に定められている専修学校であると同時に法務省より告示を受けた日本語教育機関でもあるため、そのどちらの視点においても法令を遵守した学校運営に努めている。同時に学生一人ひとりが社会において法令を遵守し本校での学生生活を送れるよう教職員一丸となって指導にあたっている。よって評価は4とした。しかしながら、個別の事例では問題行動がみられる場合もある。それを未然に防ぐために日頃の指導が重要であると認識し、今後も指導にあたる所存である。

7) 教育活動に関する情報公開が適切になされているか

教育活動に関する情報公開についてはホームページ上で行っている。また、来校された場合は求めに応じて開示する用意がある。さらに、教育活動についてより積極的な情報の開示、発信も可能であると考え。よって評価は4とした。

8) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

学内では、専任教職員のみが用いるネットワークにより在籍に関する必要情報を管理し業務を行っている。また、教務面の進捗状況や授業力向上のための情報共有等は、クラウドシステムを用いて行っている。複数の手段で学生との連絡手段が確立しつつある。しかしながら、事務処理など連動できるシステムが導入されないため効率がかかなり悪い。これにより評価を3とした。

Ⅲ. 教育活動

Ⅲ-1. 自己評価

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切… 1
1) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
2) 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 3 2 1
3) 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 3 2 1
5) 関連分野の企業・関連施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1

6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 (3) 2 1
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
8) 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
9) 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
10) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 (3) 2 1
11) 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	(4) 3 2 1
12) 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・業務含め）の提供先を確保するマネジメントが行われているか	(4) 3 2 1
13) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	(4) 3 2 1
14) 職員の能力開発のための研修等が行われているか	(4) 3 2 1

Ⅲ-2. 項目ごとの評価理由と改善策

1) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか

本校では「他者との学び合いを通し、物事を様々な角度から考えられる人を育てる。異文化を尊重できる心を育てる。」という教育理念に基づき、教育課程編成・実施においては、以下3つの方針を策定している。よって評価4とした。

- ・主体的で協同的な学びを通して、教養と専門知識を学ぶことができる。
- ・多様な文化や価値観を寛容に受け止め物事を様々な角度から考えることができる。
- ・自ら目標を設定し、課題解決に向けて取りくむ姿勢が身につけられる。

2) 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか

修業年限ごとの到達レベル、各科目における科目修了時の到達レベルについては、教務主任を中心として教員間で調整し明確に設定し、学習活動に取り組みばその修得が可能な学習時間を確保し実行している。2023年度は、コロナ感染対策の緩和にともない、対面授業を通して、学習内容の向上をより一層図るよう努めた。今後もその効果が高まるよう教員一同、学生たちを目指すレベルの到達へと導きたい。よって評価4とした。

3) 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

カリキュラムは、各科目において前提となる知識や技能を考慮し、体系的に編成したもので、評価は4とした。

4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

現在のカリキュラムは、一層実践的な技能を身につけて卒業し、就職に役立つことを念頭に置いて編成にあたったものである。科目内容はもちろん、教育方法についても主体的な学びにつなげられるデザインとなるよう教員研修を行い、各科目において工夫していることから評価は4とした。

5) 関連分野の企業・関連施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか

現在のカリキュラムは、卒業生の就職先企業よりニーズや意見等を収集して2019年度より採用しているものである。よって評価は3とした。しかし、社会のニーズの変化に応じて今後も見直しが求められるものと考えられる。

6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか

インターンシップは2019年度に初めて取り入れ、継続的に組み込んでいきたいと考えていたが、2020年度以降は新型コロナウイルスの影響で実施することができなかった。2023年度は、在籍が1年生のみだったので、次年度に向け活動の目的や方法、就職情報等の説明を行ってきた。よって評価は3とした。この後もインターンシップの位置づけをしっかりとしたものにするよう取り組んでいく必要がある。

7) 授業評価の実施・評価体制はあるか

授業評価に関しては、学生アンケート、教員による自己評価、専任教員との面談により行っている。また、教員同士による授業見学を奨励し、見学後は意見交換を促している。よって評価は4とした。

8) 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか

ひろしましごと館、新卒応援ハローワークや就職セミナー実施業者、卒業生の就職先企業担当者等から日頃の情報交換の際に頂く意見や評価、および学校評価委員の評価を教育改善に取り入れている。よって評価は4とした。

9) 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

以下のとおり明確になっていることから評価は4とした。

授業計画書に定めた各科目の到達目標と評価方法、評価対象と評価に占める割合について、各科目の担当教員は授業開始時に学生たちに案内するとともに、開講後も学期を通して学生たちに意識してもらうことで学習効果の向上を図っている。

授業内評価対象物（小テストや実技テスト、各種提出物等）については、その評価を学生が逐次把握できる形をとっており、自分自身の授業での取り組み、到達目標までの位置を把握し、能動的に学習活動に向き合える環境づくりに努めている。

また、各科目の最終授業では、学期内の自身の取り組みについて自己評価を行う機会を設けている。到達目標に照らして評価対象物の評価を整理するプロセスは科目担当教員が行う評価と共通しており、評価の客観性を高めるものである。最終成績は、授業内評価対象物に定期試験結果を加え、授業計画書に定めた割合に応じて各担当教員が100点換算を行い、評価を確定する。

尚、各科目とも、出席授業数が総授業数の3分の2に満たない場合には定期試験の受験資格が与えられず、単位取得は不可となる。

10) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

専門科目の中では、各資格試験合格を見据えた授業内容が組まれているが、受験率が高いとはいえないところに課題がある。学生自身が資格取得に意義を見出せるよう取り組み、特にIT系の各資格の受験率を高めたい。評価は3とした。

11) 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

本校の人材育成目標に向け授業を行うことができる教員と見込んで採用するほか、研修をはじめ常に教育改善に向けた自助努力に学校として取り組んでいるため、評価4とした。

12) 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・業務含め）の提供先を確保するマネジメントが行われているか

教員間のネットワークを活用し、現在も各専門分野で活躍している教員に授業を担当してもらえる状況を確保できている。よって評価は4とした。

13) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか

専門分野の教員は本校の授業以外にそれぞれ業務にあたっており、先端的な知識・技能等の習得については任せている側面が大きい。学校にスキルアップのための研

修やワークショップの案内が届いた場合は教員に共有している。一方、指導力育成などどの科目にも共通する点においては、半期に一度集まる研修の機会にケーススタディや意見交換など、資質向上を図る活動を組み込んでいる。よって評価は4とした。

14) 職員の能力開発のための研修等が行われているか

教員研修は半期に一度実施している。研修はインストラクショナルデザインに基づいて設計し、その時に最も必要と思われるテーマについて事前課題と事後課題を組み合わせて行う。2023年度は、Google フォームでの課題作成、学生のやる気につながる評価方法の検討を行い、その他 zoom による教員同士の連携方法、Google クラウド活用ワークショップを実施した。よって評価は4とした。

IV 学修成果

IV-1. 自己評価

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 就職率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
2) 資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
3) 退学率の低減が図られているか	(4) 3 2 1
4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	(4) 3 2 1

IV-2. 項目ごとの評価理由と改善策

1) 就職率の向上が図られているか

近年、労働局やハローワーク等との連絡も密にとる中で、積極的な就職活動を促進する状況はできている。日本語力も十分で、就職できたであろう学生たちの在留資格変更が認められない点については、公にはされていないが、状況を見ながら、今後も就職率の向上に努めたい。評価は3とした。

2) 資格取得率の向上が図られているか

2023年度は簿記の資格取得にむけて新たにチャレンジしはじめた点が評価できる。その他、文書デザインといったパソコン技能に関する資格試験は取得者が少ないこ

とが課題として挙げられるため、今後はこの点を強化していきたい。よって評価は3とした。また、留学生が日本で就職するには高い日本語能力の獲得が欠かせないため、この点についても引き続き取り組んでいく予定である。

3) 退学率の低減が図られているか

2023年度は、就労のため退学を申し出た学生がいた。今後も退学希望者には退学理由を聞き、生活及び精神面でのケアに力を入れる方向だ。今回は就職できるまで指導ができたということで、評価は4とした。

4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

卒業生とは SNS により卒業後も連絡がとれる体制をとっている。また、就職先企業とも定期的に連絡をとり卒業生の状況を把握している。よって評価は4とした。

5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

自分の適性や業界・企業研究を含めたキャリアプランニング科目に力を入れている。その際、卒業生の就職先企業、労働局、日本で就職し活躍している卒業生からの情報を取り入れ、科目内容に反映させるよう取り組んでいる。また、卒業生との交流機会を設け、在校生にロールモデルとして目指してもらえたらと考えている。よって評価は4とした。今後も学校として社会のニーズの把握に努め、それを教育活動の改善に積極的に生かしていきたいと考えている。

V 学生支援

V-1. 自己評価

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切… 1
1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 3 2 1
2) 学生相談に関する体制は整備されているか	4 3 2 1
3) 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 3 2 1
4) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 3 2 1
5) 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 3 2 1
6) 学生の生活環境への支援は行われているか	4 3 2 1
7) 保護者と適切に連携しているか	4 3 2 1
8) 卒業生への支援体制はあるか	4 3 2 1

9) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
10) 高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

V-2. 項目ごとの評価理由と改善策

1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか

担任教員により学生個人の希望を入学段階から把握し、キャリアプランニング科目や面談等を通して希望を明確化していく。担任教員は就職担当教員と情報を共有し、就職活動に必要な支援を就職希望者全体で、また学生個人で必要に応じて行っている。日常的に、相談や質問に対応できる体制もっており、評価は4とした。

2) 学生相談に関する体制は整備されているか

学生からの相談は随時受け付けている。また、教職員は相談してもらえる信頼関係を築くことが必要であることを共通の認識として持っている。毎日学生には声をかけ、各クラス内を回っている。よって評価は4とした。

3) 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

経済的に困難な場合に、学納金の分納や支払い猶予の措置を認めている。ただ、学校独自の経済支援制度は学校法人本部の方針により設定されていない。物資の提供や、公的支援の案内や情報共有、手続きの手助け等を行ったが、持続的な支援としては課題が残ることから評価は2とした。

4) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

新型コロナウイルス対策の緩和がはじまったが、2023年度も、引き続き体調確認を徹底することとし、体温が37.1°以上の場合や、体調不良の場合は学校を休むことを奨励した。日々の学校生活において不調を訴えたり、教職員から見て不調だと感じられる場合には声をかけたり、必要に応じて病院に付き添ったりする体制を整えているため、評価は4とした。その他、年に一度健康診断を実施している。

5) 課外活動に対する支援体制は整備されているか

運動会や球技大会など学生が主体となり、学生同士のつながりが強まるような活動となるよう支援を行い、感染予防にも十分配慮しながら実施している。ほぼ全員がアルバイトにより学費や生活費を捻出しているため、学内での部活動等は行っていない。現在は在籍している学生の状況に合っていると考えられるが、学生の構成が変わってくればそれに応じた対応が求められるものと考え、評価は3とした。

6) 学生の生活環境への支援は行われているか

希望者には寮の提供や、物件の紹介支援を行っている。年に2回、アパートの掃除

や設備などの点検を実施した。修繕か所があれば不動産の会社に連絡を取っている。また、ガス・水道・電気などの手続き、滞納分の支払い連絡等もサポートしている。その他、家電等調達の相談体制もあるため、評価は4とした。

7) 保護者と適切に連携しているか

保護者との連携は、SNS などを通し、情報共有をし、何か問題など相談が必要な事項がある場合は電話での連絡をしているため評価を3とした。学生の学校生活の様子や学習成果を身近に感じてもらえるような連携を今後も模索していく。

8) 卒業生への支援体制はあるか

就職が決まらずに卒業を迎えた学生に対しては、卒業後も就職支援を継続して行っている。また、SNS で連絡がとれる体制をつくっているため、困ったこと等についての相談も随時受け付けている。よって評価は4とした。

9) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか

既に社会人として活躍している人が本校で学ぶという点では、残念ながらニーズを踏まえているとはいえない。外国人で社会に出ている人を想定するならば一部ニーズを踏まえているといえる。今後は、キャリア促進やリカレント教育も視野に入れ、ニーズに応える学校づくりを考えていく必要があると感じている。評価は3とした。

10) 高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

高校や高等専門学校等との連携は現在進行中であり、評価は3とした。日本人学生にとっても魅力的な教育内容に取り組み、発信していく必要がある。

VI 教育環境

VI-1. 自己評価

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 (2) 1
3) 防災に対する体制は整備されているか	(4) 3 2 1

VI-2. 項目ごとの評価理由と改善策

1) 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

2024年度にむけて、建て替えや修繕が始まったが、まだ窓ガラス破損など使えないトイレがあることから評価は3とした。この後も改善を行っていく。また、補助金を活用した施設整備についても学校法人本部と調整中である。

2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

例年、日本企業の見学や説明会を実施しており、インターンシップにも参加してきた。毎年継続する予定であったが、2021年度以降、新型コロナウイルスの影響により実施できていない。よって、評価は2とした。

3) 防災に対する体制は整備されているか

2018年7月に西日本豪雨災害を経験したことから、学生に対する防災教育を半期に一度ずつ実施し、教職員間でとるべき対応、地域で果たすべき役割についても確認できている。また、避難訓練も実施した。よって評価は4とした。しかし、豪雨災害当時を知る学生たちは卒業していることから、実感をもって防災に備えるということが難しくなってくるのが予測されるが、今後一層、学生が自分ごととして災害に備えられるような教育機会が必要であると考えられる。

VII 学生の受入れ募集

VII-1. 自己評価

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学生募集活動は、適正に行われているか	4 3 2 1
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 3 2 1
3) 学納金は妥当なものとなっているか	4 3 2 1

VII-2. 項目ごとの評価理由と改善策

1) 学生募集活動は、適正に行われているか

現在の募集活動は、合同進学説明会での案内や学校訪問、SNSが中心であり、適正に行われていると判断できる。引き続き積極的な募集活動を維持していく必要がある。

よって評価は4とした。

2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

教育成果や学校の現状は正確に伝え、その上で入学を希望している学生を受け入れていることから評価は4とした。

3) 学納金は妥当なものとなっているか

2023年度は物価高にともない、今後も施設設備費などの課題が残ると考えられる。また2024年度は新校舎になることから、さまざまなケースを想定し適切であるかを判断する必要がある。評価は2とした。学校法人本部との調整案件となっている。

VIII 財務

VIII-1. 自己評価

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 (3) 2 1
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 (3) 2 1
3) 財務について会計監査が適正に行われているか	(4) 3 2 1
4) 財務情報公開の体制整備はできているか	(4) 3 2 1

VIII-2. 項目ごとの評価理由と改善策

1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

過去3年の財務諸表からは、現状では本校の財務基盤は安定していると見ることができる。一方で、今後は留学生においては世界的な情勢、日本人学生においては少子化により左右される面が大きいことから、一層魅力的な学校づくりが求められると自覚しており、評価は3とした。

2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

これは本校の現状を相談しながら学校法人本部の決定に従うものである。評価は3とした。

3) 財務について会計監査が適正に行われているか

会計事務所により適切に会計監査が行われているため評価は4とした。

4) 財務情報公開の体制整備はできているか

財務情報の公開は以下の Web ページにて行われているため評価は 4 とした。

https://www.nihonwellness.jp/information/pdf/kessan05_01.pdf

IX 法令等の遵守

IX-1. 自己評価

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4 3 2 1
2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 3 2 1
3) 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 3 2 1
4) 自己評価結果を公開しているか	4 3 2 1

IX-2. 項目ごとの評価理由と改善策

1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

本校では適切に法令を遵守し学校運営を行っている。留学生を預かる教育機関としても、法務省から「適正校」の認定を受けているため、評価は 4 とした。

2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

学校で収集する個人情報に関してはその用途を伝え了承を得るとともに、それ以外には利用しないことを徹底している。また、個人情報の流出を避けるためインターネット上での管理は行っていない。よって評価は 4 とした。今後も個人情報の取り扱いについては、最新の注意を払うこととする。

3) 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

学校レベルの自己評価は、課題を明確化する上でも、教職員で共通の認識をもって改善に取り組む上でも非常に重要な作業であると認識している。毎年取り組めるところから確実に改善につなげている。また、科目・教員レベルでも半期ごとに自己の授業について自己評価を行っており、これについてもこれまで通り実施していくつもりである。2023 年度は感染予防緩和により対面授業が充実した。評価は 3 とした。

4) 自己評価結果を公開しているか

自己評価結果については以下の Web ページにて公開しているため評価 4 とした。

<https://www.nihonwellness-sport.jp/hiroshima/disclosure/>

X 社会貢献・地域貢献

X-1. 自己評価

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 2 1
2) 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 3 2 1
3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4 3 2 1

X-2. 項目ごとの評価理由と改善策

1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

これについては現状では行えていない。よって評価は 2 とした。何か学校としてできることを考え、今後は実施を検討したい。

2) 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか

地域の清掃活動は定期的に行ってきたが、2018 年 7 月の西日本豪雨の後の民家や道路の復旧作業に学生たちが自ら進んで取り組んだことは、学生たちのボランティア活動に対する考えに大きな変化をもたらした。その経験は先輩から後輩へと伝えられているため、自分たちにできることを考えてもらい、今後も支援していきたい。学校としては近隣の清掃活動を行っているが、地域ボランティアの一環として秋祭りの参加を行ったので、評価を 3 とした。

3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

これについては現状では行えていないため、評価は 1 とした。地域に対する公開講座として本校でできることを考えていく必要がある。2024 年度は実施予定。

XI 国際交流

XI-1. 自己評価

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4 3 2 1
2) 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4 3 2 1
3) 留学生の学修・生活指導等について学内で適切な体制が整備されているか	4 3 2 1
4) 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 3 2 1

XI-2. 項目ごとの評価理由と改善策

1) 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか

留学生として地域の祭りに参加した。また、併設されている高等学校の生徒との国際交流は年次計画に組み込んでいるものと、随時調整して取り入れるものがあり実施できているため、評価4とした。

2) 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか

留学生の受入れおよび在籍管理においては、適正に行うよう常に努めており、広島出入国在留管理局より「適正校」として認定を受けている。よって評価4とした。

3) 留学生の学修・生活指導等について学内で適切な体制が整備されているか

学内では、生活指導責任者を定めているが、それだけでなくきめ細かい指導が行えるよう担任教員を中心として教職員全体で生活指導にあたるよう努めている。学修については、授業に入る全ての教員で連携し、学生個々の小さな変化や学習状況を共有できるよう努め、必要に応じて担任教員が面談等にあたっている。こうしたことから評価は4とした。異文化の中で生活しながら学んでいる留学生は精神的にサポートが必要なことも多く、2023年度も経済状況で悩む学生も散見されるため、学生との間にできるだけ信頼関係が築けるよう今後も教職員一同で努めていく所存である。

4) 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

国外で本校の学習成果が評価される取組は十分に行えておらず、評価は3とした。どのような方法で実現できるか、他校の例も参照しつつ改善を図りたい。SNSでの発信等も検討中である。

以上